

平成18年度子ども読書活動推進事業 「公立図書館等職員・学校図書館関係者合同研修会」

趣 旨 子どもの読書活動を推進するため、蔵書管理・施設整備について研修するとともに、学校と地域の図書館等の連携・協力に対する関係者の意識を深める。

実施主体 県教育庁生涯学習推進課

参加対象 公立図書館職員、公民館図書室職員、学校図書館関係者、市町村行政主管課担当者 他

参加者数 112名

回 数 1回 **日 数** 1日 **時 間** 5時間

場 所 新潟県立生涯学習推進センター

内 容

回	期日・時間	テーマ	講師等
	8月1日(火) 10:00~15:10	学校と地域の図書館の連携、指導者の 資質向上	講演 新潟青陵大学大学院教授 間藤 侑 事例発表 小千谷市立千田中学校 山並 信彦 東京学館新潟高等学校 渡邊銀次郎 新潟市新津図書館 坂野 良博
1	内容・ 方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 講演のテーマは「ことばにときめく力」。「ゲド戦記」をヒントに臨床心理学の視点を交えながら「力の意味」や「間の意味」「体験と経験の違い」などについての講演を行った。 ○ 事例は3事例。中学校からは子どもたちの読書意欲を喚起する工夫、高等学校からは蔵書管理・施設設備の整備を含んだ図書館運営の工夫、公立図書館からは連携・協力を基盤とした年間活動計画の工夫についての発表があった。 ○ 県立図書館からのお知らせ、希望者による県立図書館書庫の見学を行った。 ○ 講演、事例発表共に一斉研修。それぞれ質疑応答の時間を設けた。 	

成 果

- ・ 学校図書館関係者と公共図書館等による合同研修会は貴重な機会であるという意見が多い。双方の実践を知る上で、また、ネットワークを広げていく機会として意義があったと考える。
- ・ 県立図書館の学校支援について周知することができたこと、希望者ではあるが、書庫を見学したことは、県立図書館のピーアールにもつながり、参加者が県立図書館を身近に感じる機会となった。

課 題

- ・ 学校側と公共図書館側が顔を合わせるせっかくの機会であることから、情報交換の場を設定してほしいという要望が多かった。情報交換・意見交換の場を確保するための研修内容や形態の工夫が必要である。
- ・ 推進事業も3年目となり、事例については小・中・高・図書館・行政の各事例を紹介することができた。今後は、ワークショップなど参加体験型研修を取り入れるなど、より実践的な研修も考えていく。

問合せ先 新潟県教育庁生涯学習推進課 成人教育係 (担当 小田智美)
TEL: 025-280-5617